

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792600035		
法人名	社会福祉法人善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所中城愛誠園		
所在地	沖縄県中頭郡中城村字当間289-5		
自己評価作成日	平成30年11月14日	評価結果市町村受理日	平成31年 4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyoCd=4792600035-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成31年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中頭郡中城村当間施設があり、中城湾を一望できる高台に位置し、周囲を緑に囲まれた環境の中で、入居者は日頃から景色を眺めたり散歩をして気分転換を図っている。施設内はバリアフリーで、入居者が安心して有する能力を発揮して、一人一人が家族的な雰囲気の中で食事の準備や食器等の洗いの手伝いを行っています。また、本人がしたい事に耳を傾けて、ドライブや買い物等にも一緒にいきます。常に入居者が快適に生活が送れるよう支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中城村唯一のグループホームである当事業所は、中城湾が見渡せる高台に建つ自然に恵まれた事業所で、開設して5年余りが経過している。利用者や家族との信頼関係を築くことや地域との関わりを大事にすることがより良い支援に繋がることを職員全体で常に意識し、利用者個々の心身の状態や認知症の種類・レベルに応じた支援ができるよう努めている。利用者との対話を大切にし、利用者に信頼されるよう丁寧なコミュニケーションを図りながら、利用者の思いを汲み取り、一人ひとりの支援に反映できるよう心がけている。「中城社会福祉法人連絡会 チームパイ」に加わり、行政や地域と連携して毎年福祉祭りの実行委員を務め、ピクニックやふれあい餅つき大会、社会見学等の地域公益事業にも参加し、年間を通して協力的に活動している。隣地に開設した他法人のデイサービスとも日常的に交流があり、「敬老会」には利用者と職員が参加している。利用者の日常生活に必要な金銭管理を行い、わかりやすい収支一覧表を作成して家族に渡すなど、家族等の要望にも継続的に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識できるよう玄関に掲示している。管理者と職員は理念を共有し、入居者一人ひとりにあった支援、介護に努めています。	職員は、利用者を一人の人間として尊重し、利用者や家族との信頼関係を築くことを第一として支援するように努め、理念の実践に繋げている。担当職員を中心に利用者の状態や希望を把握し、利用者ができることややりたいことを優先して一人ひとりに合った支援を行うよう心がけている。地域との交流を大切にすることが、利用者のより良い支援に繋がるという方針で、地域との関わりを重視した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流する事はできていないが、隣接するデイサービスとの交流を図っている。また、入居者と一緒に買い物に出かけた際、顔を覚えてもらうようにしている。	近隣地域の複数の納涼祭や敬老会等の行事に参加し、交流が行われている。「中城社会福祉法人連絡会」に加盟して地域公益事業を推進し、福祉祭りの実行委員を務め、諸活動に参加し、毎月情報交換を行っている。散歩コースにある自動車修理工場の職員の声かけや近隣住民からの花の大鉢の贈呈がある。隣接する他法人のデイサービスの「敬老会」に利用者職員が参加・交流し、ハローウィンパーティーでは地域の保育園の園児とも交流している。運営推進会議の委員として民生委員が2名参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせがあった場合や、施設見学に来られた地域の方々へは、実践で積み上げた支援の方法を、解りやすく説明しているが、十分生かすことは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の利用状況や行事報告、事故報告、行政へ提出する書類の報告などを行い、推進委員一人ひとりからの意見や情報をミーティングで共有し、サービスの向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月に1回開催し、利用者や家族代表、行政職員、地域代表、知見者等が参加している。委員には開催案内の文書を送付している。会議では活動状況や事故・ヒヤリハット、外部評価結果の報告をし、インフルエンザの予防接種や敷地周囲の雑草の処理、台風対策等の意見交換が行われている。会議録や外部評価結果は、家族との話し合いに利用する事務室内に閲覧できるように整備している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で情報交換を行ったり、市町村担当者から空き状況の確認、入居依頼、見学の相談、村主催の研修会への参加依頼など、日頃から連絡を取り合い、協力関係を築いている。	行政職員が運営推進会議に毎回参加し、担当課には更新の手続き等で出向いて、空床に関する情報交換や見学依頼の連絡等を行い、研修案内等は電話やFAX等で受けている。村の福祉祭りでは毎年ブースを設け、事業所の紹介等を実施して利用者も参加しているが、今年は台風で祭りが中止になった。敷地周囲の雑木・雑草の処理について行政に相談し、中部土木事務所に依頼して実施が決定している。行政や社会福祉協議会と協同して、諸行事や地域公益事業に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に向けて、毎月のミーティングで話し合いを持ち職員間で理解しあっている。入居者が好きな時に屋外へ行けるよう、如何なる時も正門、玄関、居室の施錠はしないケアに取り組んでいる。	身体拘束0委員会を開催し、身体拘束をしないケアの徹底に取り組み、身体拘束廃止については、契約時に家族に説明している。法人の研修会や外部研修会に参加した職員の復命書や資料を通して全職員が学べるよう工夫している。身体的拘束等の適正化への指針を見直し、委員会を2か月に1回開催し、運営推進会議で報告をしている。委員会の議事録は職員が交代でまとめている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は常に意識して、身体的・心理的虐待、放棄など、あらゆる虐待が起こらないようミーティングで話し合い、確認し合って防止に努めている。	虐待の防止については、日頃から「不適切なケア」がないように意識し、ミーティング等で話し合い、職員の周知を図っている。法人内研修や県主催の研修等の参加資料を約1か月他の職員が閲覧できるようにしている。虐待防止対策マニュアルが整備され、新人職員は法人本部の新任研修でも学んでいる。職員のストレスチェックは、中部医師会の保健師が年に1回実施している。虐待防止マニュアルの見直しと継続的な研修の実施に期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、成年後見人制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会があったが、十分理解できたか、職員によってバラつきがある。職員がいつでも閲覧できるよう、資料を置いてある。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に文書の一つ一つ丁寧に解りやすく説明して、契約の締結あるいは解約について、同意を得ています。改定等については、関係書類を郵送したり面会の際に説明して、ご家族の理解、納得を図っている。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは、日頃から意見や要望に耳を傾け、運営に反映させている。家族に関しては、面会の際に現状の報告を行い、意見や要望を伝えやすいよう努めている。玄関前には意見箱を設置しており、また契約の際、行政機関等の受付窓口がある事を説明している。	利用者や家族とは直接話すことが多く、利用者の意見や要望は日々の生活や外出支援時に聞いている。家族には面会や受診に同行した際の待ち時間等に聞くようにしている。「髪を染めたい」、「食事にとろみをつけてほしい」、「金銭管理をしてほしい」等の要望があり、利用者全員の金銭管理を行い、詳細な収支一覧表を作成して、毎月家族に報告している。月1回の訪問美容も実施されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気付いた点は管理者と職員で話し合っており、月一回の職員会議の中で協議を重ね、運営に反映させている。月2回、法人の連絡会議があり、職員の意見や提案を代表者へ報告し、運営に反映させている。	管理者は、職員の意見や要望は、日常の業務や毎月の会議等で聞いている。台風対策として、自家発電機の設置やバキューム機の購入、東側居室や食堂の窓の補強用パネルの設置について提案があり、対応している。車イス対応の福祉車両の購入、転倒防止のための玄関の門扉の設置も実施している。人事異動や離職の際は、利用者へ「勉強してくるから」等のさりげない挨拶を行うようにし、その後も訪問して利用者との交流を続けている元職員もいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	臨時雇用期間6ヶ月目から、勤務態度が良好であったり、介護福祉士実務者研修を受けている職員に対しては本採用として、やりがいの持てる職場環境づくりに努めている。	就業環境については、就業規則があり、働く環境や条件が整備されている。毎月の勤務表作成前の希望休の確認や臨時職員の正規雇用への転換などの配慮がある。法人全体で実務者研修等の受講支援が行われ、受験の際には職専免の配慮など、資格取得の支援がある。法人の負担により、全職員が年2回の健康診断を受け、法人のユニホームも支給されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の施設内研修を定期的に行ったり、施設外研修に参加する機会をつくり、知識や技術の向上を図っている。研修で得たことなどを文書として残し他職員が閲覧し共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修に参加して同業者と交流する機会を得ており、同法人の他グループホームとは定期的に交流を持っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談してモニタリングを行い、要望や困っていること、不安に思っていることなどに耳を傾け、職員間で話し合った事を共有して、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のモニタリングで、家族の要望に十分と耳を傾け、困っている事や不安な思いを受け止めて、要望に沿う援助が提供できるよう説明して、信頼関係が築けるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を必要としているのか耳を傾け、個々に合った今必要としているサービスが提供できるよう、また今後必要となり得るサービスの提供についても話し合い、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの能力に応じて、掃除や洗濯干し・衣類たたみ、食事の下ごしらえ、食器洗い、買い物等、これまで行ってきた家事を、職員と一緒に実践することで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、本人と家族がゆったり触れ合える場を提供して楽しい時間を過ごしてもらっている。施設での近況を報告したり、家族からの要望を聞きだして入居者を支え合っていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自治会の老人会や夏祭りに参加したり、馴染みの場所をドライブで訪ねたりしている。馴染みの人との関係を保つのは乏しいが、デイサービスで幼馴染や知人と触れ合ったり、スーパーや野菜屋で買い物している際に、知人と触れ合う機会もある。	利用者からは、戦前・戦中・戦後の話や昔の学校の話等を聞き、生活歴や職歴について把握するように努めている。地域の行事や隣接するデイサービスを通して、幼馴染みや地元の知り合い等と交流できる機会がある。利用者の出身地の名産の話題を取り上げたり、新聞やテレビ等で得た故郷の情報を提供するなど、利用者個々の馴染みの暮らしを大切にし、馴染みの人や場との関係が継続できるように支援している。元同僚の方が、琉球かれんの演奏ボランティアで定期的に訪問している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりに個性があり、時々衝突することがあるが、職員が仲を取り持ち、良好な関係が築けるよう努めている。入居者は一緒に食事を摂り、一緒に食器を洗ったり、調理の下ごしらえや洗濯物をたたんだり、一緒に買い物に出かけたりと、関わり合い支え合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の機関へ転院、入所する際、また入所後でも、本人の基本状況やケアの状況を詳しく伝え、フォローに努めている。年賀状や暑中見舞いを送って関係性を保っており、家族から相談があれば、支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日入浴したい、今風呂に入りたい、部屋で食事がしたい、買い物してきてほしい、家に帰りたい、電話して欲しい等、多様な要望に対応できるよう支援している。	職員は利用者の近くに寄り添い、1対1でゆっくり話を聞き、利用者の思いや意向を把握するよう心がけている。方言の得意な職員は方言で日常会話をし、スムーズなコミュニケーションを図るなど、利用者にあった方法で希望や思いを汲み取るように努めている。他科受診の待ち時間が長く、負担になるという利用者のため、病院を変えて同行している。自分自身を職員とと思っている利用者や耳の遠い方等、一人ひとりの思いに添い、その人らしい暮らしを支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは家族から、在宅生活時の暮らしぶりや生活環境を聞きだし、使い慣れた家具を居室に置いたり、生活パターンを大きく変えずに、その人らしい暮らしが続けられるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日頃から一人ひとりの入居者を観察したり、バイタルチェック表や排泄チェック表、食事摂取状況を確認して、心身の状態を把握している。また、有する能力も把握しており、ADL面において、個々に応じて声掛けしたり援助して対応している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、より快適に過ごせるよう、入居者一人ひとりに担当者を置き、本人や家族、主治医から聞き出した情報を、ミーティングの中で個別毎に話し合い、現状に即した介護計画が作成できるようにしている。	サービス担当者会議には利用者や家族、管理者や担当職員等が参加し、利用者の現状や家族の希望等を反映した介護計画の作成に努めている。計画は長期目標を1年、短期目標を半年とし、毎月のミーティングや3か月に1回のモニタリング等で検討し、定期の見直しや状態変化による随時の見直しを行っている。トイレの理解が難しい利用者の課題を個別支援に位置付け、排泄の改善に繋げた事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの内容、健康状態等を記録した個別日誌や、申し送り簿を記録、確認して職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今風呂に入りたい、今買い物してきてほしいと言う入居者のニーズに即応したり、受診や散髪、必要物品の買い物等、家族が対応できない場合は、職員や管理者が対応する等、柔軟に支援している。三味線や舞踊等、イベントを見学して満足感も得られている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中城村の行事、自治会の行事に参加したり、隣接のデイサービスや図書館、スーパーに出かけて地域交流を図ることで、他者と触れ合い、豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、入居前から通っているかかりつけ医を受診している入居者もいる。受診の際には、家族に身体状況や服薬の状況の報告、情報を記した書面を手渡し、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて、職員が受診対応することもある。	利用者はかかりつけ医を継続受診し、他科受診は家族が対応している。家族が対応できないときは、職員が受診支援を行っている。受診時には、診療情報提供書を持参し、受診の結果は、医師からは書面で、家族からは口頭で報告を受けている。職員は業務日誌や申送りで情報を共有している。利用者は、レントゲンや血液検査等の健康診断を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置や訪問看護の受入れはない。同法人の看護師に状況を伝え相談し適切な支援ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居者の精神的ストレスを軽減するため、本人に関する情報を医療機関に提供して、安心して治療できるように支援している。退院時は、事前カンファレンスに参加して、早期に退院できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族に対しては契約の時に、重度化して医療的な行為の比重が大きくなった場合は、入居生活が困難になる事を説明して、本人及び家族の理解を得ている。その際、同法人の特養ホームへの受入れ、あるいは他特養ホームへの受入れが出来るよう支援している。	重度化や終末期に向けた方針や対応についての説明は、契約時に行っている。現在、看取りは行っていないが、事業所としては、これまでの看取りを実施しない方針を見直し、利用者や家族の要望に添えられるように今後、看取りを実施する方向で検討している。指針の作成、医療連携の体制作り、職員研修等への取り組みに期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が定期的に救急救命の講習会を行っているが、全職員が講習に参加することが出来ていない。緊急時の対応マニュアルを事務所に置いてある。入居者の急変や事故発生時の対応については、職員会議で確認し合っており、初期対応や救急対応を行なっている。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者にも参加してもらい、日中及び夜間を想定した消防訓練(総合訓練)を行っており、入居者が安全に避難できる方法を、職員全員が身につけている。地震、水害等の災害については、行政に連絡を入れ、避難場所を確認している。	隣接するデイサービス施設と合同で昼間想定避難訓練を年2回行っているが、夜間想定訓練が行われていない。実施後の報告書がまとめられていなかった。事業所は、周辺に民家が少ない高台にあるため、地域住民の参加が課題となっている。備蓄は、米、小麦粉、ラーメン、レトルト食品、缶詰等を1週間分、ガスコンロ、ペーパー、紙皿などを備え、飲料水は、水タンク2台に1週間分用意している。台風時の夜勤は、2名体制となっている。	夜間を想定した避難訓練の実施、及び実施記録報告書の整備、地域住民の訓練への参加が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重することを常に意識して、日頃から言葉使いや接し方に注意を払っている。法人で接遇を学ぶ機会もあり、人格やプライバシーを傷つけないような対応を行っている。	利用者の特性や状態を把握し、支援に努めている。利用者の意見を取り入れて、フロアの壁に掲示していた利用者の写真を取り外した。居室の鍵を自分自身で管理している利用者が2人いる。不適切な言葉使いや行動などに気づいた場合は、職員同士で話し合っている。個人情報保護方針が作成されていない。	個人情報保護方針の整備に早急に取り組むとともに、利用目的の明示、及び個人情報保護方針等の掲示が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が常に、思いや希望を自由に表せるよう雰囲気作りを心掛けており、「散歩がしたい」「好きなテレビが観たい」「買い物したい」「お風呂に入りたい」「ドライブに行きたい」等、日頃から自己決定できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、一日の流れの中で時間を決めてはあるが、症状や体調に応じて柔軟に時間を変更している。すべての入居者が、思い思いのペースで過ごすのは難しいが、出来る限り希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら髭を剃ったり、化粧をする入居者もいれば、声かけをして身だしなみを整えてもらう方もいる。入居者の要望で、定期的に訪問カットに来てもらい散髪を行っている。服装に関しては入居者が選んで着替えており、職員が服装を整える事はある。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食職員が作り、献立表を確認しながら同じ料理にならないよう、入居者の希望や好みの物を取り入れながら、皆で一緒にテーブルを囲んで、食事が楽しめるよう支援している。一人ひとりの力量に合わせ、食事の下ごしらえや食器洗い、食器拭き、買い物等行っている。	食事は3食とも事業所で調理を行ない、提供している。利用者は、下ごしらえ、食器洗い、食器・テーブル拭きなどの役割を担っている。特に人気のある食器洗いは、当番表を作成し、当番が分かりやすいように台所近くに掲示している。利用者と職員は食事を一緒にとっている。クリスマスには、バイキング料理会を行い、バーベキュー会では、ノンアルコールビールを楽しむ利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者がいつでも自由にお茶が飲めるようポットに作り置きしてある。栄養バランスの取れた食事を摂取してもらい、毎日食事と水分の摂取量を記録して、一人ひとりの状態が確認できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、毎回口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。入居者一人ひとりの力量に応じて、声かけのみの方もいれば、歯ブラシをセッティングして手渡す、入れ歯を洗浄剤に付けて置くなど介助を要す場合もある。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、排泄パターンを把握して、リハビリパンツ・尿取りパットを使用しているが、尿意・便意の訴えに即応し失敗しないよう支援している。	介助なしで排泄可能な利用者が多く、排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ排泄を支援している。睡眠を重視して夜間のおむつを調整している利用者もいる。トイレの場所を忘れてしまい、排泄の度に混乱してしまう利用者に対し、利用者の好む青色のテープを廊下に貼って、居室からトイレまでの導線を可視化し、支援することで利用者の安心につなげた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から食物繊維を意識した食事を提供して、便秘予防に努めている。排泄チェック表を確認したり、入居者からの訴えで便秘を確認した場合は、牛乳など水分を多く摂取してもらい、職員が付き添って散歩したり、腹部マッサージをして、便秘解消に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、曜日を決めて入浴してもらうが、本人の体調や希望、受診日など、その時々都合により、何時でも入浴できるよう支援している。本人の希望で、毎日入浴している入居者もいる。	入浴は、週3回のシャワー浴を基本としており、女性と男性を曜日別に支援し、利用者の体調や希望により柔軟に対応している。毎日入浴する利用者もいる。事業所が用意した入浴用品ではなく、好みのものを使用している利用者もいる。整容時には、化粧水や乳液などを使用してリラックスする利用者もいる。ほとんどの利用者が自立しており、着替えの準備から整容までを見守り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活習慣があるため、就寝にバラつきがある。無理に寝かせるのではなく、ホールでテレビを観たり、会話を楽しんだ後に就寝を促している。季節によって居室を適温にしたり、寝具類を交換して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、入居者一人ひとりの個別の専用ケースに一週間分の薬をセッティングしている。薬の内容も記載しており、薬の変更にも常に気を配りながら管理している。毎回職員が手渡しで服用したことを確認し、状態観察も怠らないよう努めている。	利用者のほとんどが服薬している。処方された薬は、個別に一週間単位でセットし、与薬の際には手渡しして、服用の確認をしている。薬の飲み忘れや誤薬が2回発生しており、運営推進会議で事故報告がされている。服薬事故の都度、話し合いを行い、事故防止に努めている。	安全な服薬支援のために、服薬支援に関するマニュアルを整備し、誤薬事故が再発しないよう、職員への周知徹底が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後に掃き掃除をしたり食器洗いや食事の下ごしらえが役割になっていたり、無理強いはなく率先して役割をこなしている。漢字パズルを楽しみたい、沖縄芝居が観たい、コーヒーが飲みたい、買い物・ドライブに出掛けたい等、一人ひとりが満足いくよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩がしたい、買い物がしたい、ドライブがしたい等、入居者の希望に沿って公園や博物館、スーパーなどに出掛け、外出支援行っている。季節の移ろいを感じられるよう、初詣や八重岳の桜を見物したり、ひまわりやコスモスを見に出かけたりもしている。	近くのスーパー等へ出かけ、服や食材の購入を支援している。事業所周辺の散歩を日課としている利用者がいる。週に2、3回のミニドライブで気分転換を図っている。法人の大型バスを利用して、利用者全員で遠距離のドライブを行い、北部の桜祭りの見学や初詣、ひまわり畑、コスモス畑の見学などで四季を感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者は、お金を管理することは難しいが、中にはお金を所持することで満足したり、安心する入居者もいるので、家族と相談して少額を所持してもらっている。普段は、事務所で預かっており、必要物品は家族の同意を得て購入したり、受診の支払をしている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ、本人が家族へ電話できるよう支援したり、必要に応じて代弁したり、手紙のやり取りができる入居者に対しては、友人知人から届いた手紙の返事をポストに投函したりと、楽しみの一つになるよう支援している。	/	
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日整理整頓、掃除を行い、常に清潔を保っている。居心地良く過ごせるよう、採光や室温には十分配慮している。玄関やフロアーには、季節に応じた飾りつけをしたり、入居者の日頃撮った写真を展示して、生活感や季節感が感じられるよう工夫している。	食堂兼居間は広々としたスペースで、その一角に6畳ほどの畳間が設置されており、洗濯物を畳んだり、横になることができる家庭的な場となっている。玄関には写真付きの職員紹介が掲示され、居間には写真と名前入りの当日のシフト表が掲示されており、利用者が確認することができ、利用者の安心につながるよう配慮している。廊下には、利用者が作成した大型の切り絵やカメラが趣味の職員が撮影した風景写真が飾られており、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 3月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファがいくつも設置され、食卓テーブル、畳間があり、入居者は一人でくつろいでいたり、複数でおしゃべりを楽しんだり、畳間に寝転がったり、テーブル席でテレビやカラオケを楽しんだり、各々過ごしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を置いたり、家族の写真を掛けたり、居室のレイアウトは本人及び家族が自由に行っている。中にはテレビやラジオ・観葉植物を置いて水やりをしたりと楽しんでいる。	居室は、ベッド、クローゼット、防災二重カーテン、エアコンが整備されている。利用者はこれまで使い慣れたテレビ、イス、タンス、机、観葉植物などを持ち込んでいる。居室の壁には、家族写真や空手をしていた若い頃の写真、利用者自身が手作りした大型のパッチワークなどを飾り、自分らしい落ち着いた居心地の良い部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手摺が設置され、不必要なものは片づけ、常に整理整頓を心掛けているので、車椅子の入居者も安心して移動ができる。また、居室が一目で解るよう名前を貼り付けたり、トイレや浴室も表示があり解りやすい。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム中城愛誠園

作成日 : 平成 31 年 4 月 5 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	夜間を添想定した避難訓練の実施、及び実施、記録報告書の整備、地域住民の訓練への参加が望まれる。	日中と夜間を想定した消防訓練を年度で2回実施し、年間事業計画書に予定を明記しておく。	平成30年度日中を想定した、消防訓練を平成30年9月18日(火)14時～15時実施した。夜間を想定した消防訓練を平成31年3月25日(月)14時～15時実施した。	0ヶ月
2	16	個人情報保護方針の整備に早急に取り組むとともに、利用目的の名示、及び個人情報保護法等の掲示が望まれる。	入居者のプライバシーを尊重するグループホームのかかげる理念にもとづく尊厳ある生活支援を行う。	職員に対し重要説明、契約書に記載される秘守義務、個人情報の取り扱い方法を周知徹底する。	1ヶ月
3	20	安全な服薬支援のために、服薬支援に関するマニュアルを整備し、誤薬事故が再発しないよう、職員への周知徹底が望まれる。	内服薬の準備は1名行わず2名でダブルチェックを行う。服薬時は薬の確認と本人確認を呼称し誤薬を予防する。	内服管理マニュアル作成し、①内服準備 ②投薬③確認を、徹底し、誤薬、事故予防を職員に周知する。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。